

平成31年度 平井保育園事業報告

1. 概要

①運営報告

- 保育園は松山市郊外に位置し、新興住宅地もあるため育休復帰の方が多く、低年齢児の保育ニーズは増えています。保育園を選ぶにあたって、ホームページを確認し園見学したり子育て支援センター利用で保育園の取り組みについて知ったりすることで入園につながるケースが多くあります。そのため、保育内容の充実を図り、地域の中で認められ、地域貢献も行うことで存在価値のある保育園でありたいと思っています。
- 今年度は新卒保育士1名とパート保育士2名を採用することができましたが、正規職員が年度末に1名退職、1名パートになりました。年度途中で育休復帰した保育士とフルタイムパートから雇用形態の変更をして正規となる保育士1名がいましたが、パート保育士が多い現状に変わりはありません。このような状況ですが、全職員が共通意識をもって保育に取り組めるように、各年齢の「保育の一日の流れ」「標準的実施方法」の見直しをしました。今後もOJTを何度も繰り返すことで定着させていくことを目指していきます。
- 社会福祉事業評価機構による第三者評価を受審しました。受審を機会に、主任やリーダー保育士を中心にマニュアルを再確認し、手直しをしていきました。また、新卒保育士やパート保育士への周知を図るために昼の時間帯や土曜日なども活用し、勉強会を行いました。
- 松山市が園舎の建て替えを計画しており、公共建築課の職員や業者との打ち合わせがありました。令和2年度には保育園東側の農地の整備が終わり、年度末には建て替えが完了する予定です。

②定員 120名 園児数131名（3月31日）

③事業日数 362日（うち休日保育39日）

④開園時間 平日 7:00～20:00 休日 8:00～18:00
土曜日 7:00～20:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00～8:30
通常保育 8:30～18:00【標準時間認定】
8:30～16:30【短時間認定】
延長保育 18:00～20:00

⑥職員数 園長 1名、主任保育士 1名、看護師パート 1名
保育士 20名（うちパート保育9名）
子育て支援センター担当職員 3名（うちパート保育士2名）
延長保育担当保育士 3名（うちパート保育士3名）
調理員5名（内パート職員3名）
嘱託医（松山市の指定による）内科医 1名・歯科医 1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制（3月31日）

0.1歳児	24名	保育士	5名	（うち保育士パート2名）
2歳児	24名	保育士	4名	（うち保育士パート2名）
3歳児	26名	保育士	3名	（うち障害加配1名）
4歳児	29名	保育士	2名	
<u>5歳児</u>	<u>28名</u>	<u>保育士</u>	<u>2名</u>	<u>（うち障害加配1名）</u>
合計園児数	131名	保育士	16名	
主任保育士	1名	フリー保育士	1名	
延長保育担当保育士	3名			（うちパート保育士3名）

⑤保育内容

- 0.1歳児クラスは、ゆるやかな担当制、2歳児クラスは少人数でグループ保育をしました。また、日々のじゃれつき遊びを継続して行うことで、子どもと保育士との愛着関係が深まり、落ち着いて話を聞こうとする姿が多くなりました。
- 0～2歳児は安田式遊具・マットや巧技台を使って基礎的な運動あそびを楽しんでいましたが、今後は、乳児期の発達を理解した上で共感性が高まるあそびを、計画的に取り入れていきます。
- 子どもの興味関心に合わせ、図鑑を準備したり、実際に触れたり観察したりできる環境を整えていったことで、遊びの展開が見られました。しかし、指示待ちで、自分で考えて行動に移せない子どもも多くいます。保育士の言葉がけの多さや考えることを引き出す声掛けができていないことが原因であると考えますので、来年度の課題として取り組んでいきます。
- 幼児クラスの「石井式漢字教育」は、新規採用保育士と各クラス担任が実技研修、全職員で理論も学びました。
- 「音楽あそび」では専門の講師による指導を週1回継続してきたことで、保育士自身も見通しを

持って取り組むことができ、音楽リズムや歌唱を学ぶ楽しさを分かち合うことができました。

- 幼児クラスの「朝の意味ある運動」は、脳内ストレスを発散させ落ち着いて一日の保育活動に取り組めるように意識しました。しかし、幼児クラスは人数が多いため待ち時間が長くなることが課題です。

ジャクパ四国の専門講師による体育指導も引き続き行い、発達に応じた目標に向けて子どもたちが楽しみながら身体を動かしていきました。

- 保育園でのルールである「並んで待つ、順番を守る」は定着してきましたが、「大きな声を出さない」等は十分ではありません。子ども達が自分たちで気をつけるようになるまで伝えていきます。
- 本年度も全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を題材に人権教育を行いました。普段の生活の中でも場面を捉え人権教育を行いました。保育者自身も子どもの人権を守り、子ども一人ひとりを大切にしたい保育が実践できているか見直しました。
- 保健指導を月一回実施し、昨年度から実践している歯科衛生士養成校の学生による歯磨き指導も行いました。歯磨き指導は、子ども達も楽しみながら1対1で学ぶことができました。
- 食育では、今までと違った野菜を栽培したことで、子ども達が今まで以上に興味を持ち、食への関心が広がりました。また、乳児期の「一口食べ」を毎日実践し保護者にも一口ずつ嚙んで食べることの大切さを個別に伝えていきました。
- 5月の他県での交通事故を踏まえて、散歩コースの危険個所の見直しを行いました。安全確保した上で予定通り、積極的に散歩に出かけ探索したり、自然物に触れたり、言葉で伝えあったりするなど自然を通して主体的に学ぶことを大切にしていきました。

⑥家庭との連携

- 日々の保育内容や子ども達の発達をドキュメンテーションとして伝えました。降園時に親子で見ながら会話している姿もよく見かけ、子どもも一緒に話ができることを楽しみにしているようです。
- 家庭訪問(新入園児1回)や個別懇談・就学前個別懇談(年1回)、クラス懇談(年2回)を行い、子どもの成長や発達を映像や資料で分かりやすく伝えていきました。また、保育参加(年1回)では保護者紹介や得意なことをしてもらおうように提案したところ、保護者自身も楽しんで参加し、子ども達も親しみを持つことができる機会となりました。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを園だよりやクラス懇談会で伝えました。特に睡眠については書籍の紹介もするなどし、個別にアドバイスもしました。また、夕方運動を年齢別に時間を決めて実践し、そのことが良い睡眠へのリズムを作ることを保護者にも伝えていきました。
- 配慮を要する子どもは、松山市児童発達支援センター等の療育に通っている子どもが4名、保健所5歳児相談を3名が受け連携しながら家庭とも話し合い適切な支援ができるように配慮しました。

⑦人材育成

- 第三者評価の受審を機会に評価項目に沿っての勉強会を行いました。特に「こどもが主体的に活動できる環境整備」について考え取り組みましたが、まだまだ課題が残っています。
- 安田式運動あそびの情報を活用し、幼児クラスでは子ども同士が関わりあえる集団あそびを積極的に取り入れましたが、0.1.2歳児では、遊び方が限られてしまいました。子ども達がもっと他児を意識して楽しめるために、共感あそびを実践研修で取り入れていきたいと思えます。

- 新人保育士や新しく入職するパート保育士が白鳩会の保育について理解できるように、各年齢の「一日の保育の流れ」や「標準的実施方法」を伝えていきました。
- 園内研修（石井式漢字教育、アレルギー対応、救急救命、SIDS、感染症対応、不審者訓練、人権指導など）を行いました。また、絵画指導では、年齢にあった手法や道具での表現、「子どもに何を学ばせたいか。」で素材を選ぶことなどを学び、3歳児クラスで実践研修もしました。今後も実践しながら学ぶことを繰り返していきたいと思います。

⑧地域の実態に対応した事業

●地域子育て支援拠点事業

- ・地域の子育て中の親子が、ふれあって楽しめるように、ふれあい遊びや歌あそびを多く取り入れ、親子でできる制作も喜ばれました。延べ参加人数（3991人）
- ・民生委員の力を借りることで赤ちゃん広場に兄弟を連れての参加もしやすくなりました。(484人)
- ・ホームページのレイアウトを見やすく工夫し、園庭開放に保育園行事を組み入れたりしたことで保育園に来てくれる方が急激に増えました(225人)。また、園児参加の「子育て支援運動会」を実施したことが園児にとっても保護者にとっても良い機会となりました。
- ・子育て講座(266人)・出張保育(56人)・親子ふれあい広場(504人)
- ・子育て支援センター利用の保護者のニーズを拾うアンケートを実施したところ、保育園の事を知りたいという希望が多くありましたので今後も工夫した内容を取り入れていきたいです。
- ・3月に予定していた保育園体験での給食試食会、保育園内で講演会などは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、センターも閉鎖せざるを得なくなり残念でした。

●地域とのかかわり

- ・地域の小学校の学習の一環として保育園訪問がありました。中学校の職場体験(5日間)は、希望の年齢で経験できるよう設定したため、そのことが学習につながったと思います。
- ・年長・年中児が高齢者施設「梅本の里」「安心ハウス仙波」との交流や施設訪問し喜ばれました。
- ・地域の文化祭や商店街の行事参加、夏祭りにも参加し地域の方に保育園の活動を知ってもらいました。親子でたくさん参加してくれたことが、地域の活性化につながると喜ばれました。
- ・近隣の障害児施設に通う年長児と個人交流をしました。医療的ケアのいる子どもさんが同じ小学校に行くということの驚きもあり、園児にとっても違いを知る良い機会となりました。

●小学校との接続

- ・小学1年生の6月の参観見学後、保幼小連絡協議会での意見交換をし、2月には個々の園児の引継ぎも行いました。子ども達は、学校行事や1日体験入学に参加することで、学校への意識も高まりました。
- ・年長となり幼児教育相談室の「ことばの教室」に通った子ども1名、教育相談3名が受け、小学校と連携を図りました。
- ・3月に予定していた授業見学は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

⑨苦情処理

- 第三者委員（主任児童委員2名）を設置し、保育園のガイドブックに記載、掲示もしました。入園説明会やクラス懇談会で苦情解決システムについて保護者に周知しました。また、意見箱設置やアンケートも2回実施し、改善できることはしていきました。
- 今年度は、本部に匿名で苦情を上げる保護者がおり、直接話ができないため対応に苦慮しました。すぐに園内掲示にてお詫びと回答を上げましたが、状況説明ができないままで保護者との信頼関係を結ぶことの難しさを感じました。苦情の早期発見つなげるように、職員間の連携をさらに大切にしていきます。

⑩リスクマネジメント

- 計画的に安全や保健に関する研修（危機管理訓練、救命救急、感染症、SIDS、アレルギー対応について等）を行いました。子どもに対しては、愛媛県警察本部少年課による防犯指導が分かり易く今後も引き続き受けたいと思っています。
- 他県の園外保育時の事故を受けて、散歩コースを見直し、危険個所や引率の仕方の確認をしました。また、そのことを保育・幼稚園課と警察に報告し、道路管理課がカーブミラーの交換や表示の塗り直しをしてくれました。
- 夏場は熱中症予防のため、熱中症指数計で屋外の状態を調べ記録し活動の制限をしたり、時間を決めて水分補給をしたり、遮光テントで日陰を作ったりと注意を払いました。
- 危機管理係を中心に危機管理マニュアルの見直しをしました。また、職員会議等で周知し、いつでも確認し合えるようにしています。
- 非常災害対策計画を策定し、職員の役割分担、備蓄品・アレルギー児備蓄品の再確認をしました。また、保護者の協力を得て園児の引き渡し訓練も実施しました。今後も職員の危機管理意識を高め安全性の確保に努めていくためにも様々な想定に応じた避難訓練を実施していきます。
- 地域の防災訓練（年2回）や小野交番連絡協議会（年3回）に参加し、保育園の取り組みを伝えるなどすることで関係性が高まり、園周辺の巡回をしてもらえることが多くなりました。
- MACネットシステムは非常災害時や感染症発症状況等について情報配信する重要なものであることが保護者にも浸透し100%登録してくれました。情報発信に有効に使うことができます。

⑪休日保育

- 日曜に就労のため保育が必要な子どもの休日保育を行いました。利用人数が少なく、家庭的な雰囲気ですごすことができました。
8：00～18：00（正規職員1名・パート1名で対応します）

⑫その他

- 松山市の園舎建て替えのため、保育・幼稚園課と公共建築課が、保護者への説明会や小野地区の公共機関や農業委員会、近隣へのあいさつ等もしてくれています。